

実習先と共に構築するスーパービジョンと実習マネジメントに関する研究

一人ひとりの学生の主体性や実践力を育む相談援助実習教育をめざして

日本社会事業大学 岸野靖子 (006366)

蒲生俊宏 (日本社会事業大学・002396) 添田正揮 (川崎医療福祉大学・007092)

黒川京子 (日本社会事業大学・007186) 宮島清 (日本社会事業大学・006344)

キーワード：相談援助実習・スーパービジョン・支持的機能

1. 研究目的

2009年4月から新カリキュラムが新たにスタートし、実習指導者講習会の受講が進む中で、従来の体験型実習から専門職養成としてのソーシャルワーク実習の位置づけが明確になり、相談援助実習としての実習指導職員によるスーパービジョンや実習マネジメントの枠組みが必要であることが提起されてきているが、その方法や具体的展開過程については、課題が多いままである。平成20年度老人保健事業推進費補助金事業「介護保険分野における社会福祉士養成実習のモデル構築に関する研究」報告書では、介護保険分野における実習の課題としてケアワーク実習の域を出ていないことや、実習先指導職員の資質向上が課題として指摘されてきている。一方、日本社会福祉士会施設実習指導者研修委員会フォローアップ研究作業部会報告書「新制度のもとでの相談援助実習の質の向上に関する研究」では、養成校教員の資質向上が課題であると指摘されている。実習指導の枠組みは、実習生・実習先指導職員・利用者・養成校教員の4者から成り立つものであり、現在の状況を総合的にみると、養成校教員・実習先の指導職員双方の資質向上が課題であり、福祉実践現場の改善と相談援助実習教育の向上は両輪のものであると考えられる。

植田は(2005)は、対人援助におけるスーパービジョンとは、「対人援助を行う施設や機関において、スーパーバイザーによって行われる専門職としての援助者を養成する過程」であると定義している。そしてスーパービジョンに求められることは、援助者に対人援助の本質を伝えることであり、それが実践できるように援助者を支え、育成し、環境を整えていくことであるとして、その機能を支持的機能・教育的機能・管理的機能に整理してきている。本研究では、相談援助実習の学生の変容の実態を2009年からアンケート調査した結果から分析し、相談援助実習教育におけるスーパービジョンやマネジメントのあり方を考察し、新たな視座を開発することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

2009年度の本学における社会福祉士実習生のアンケート調査結果を踏まえ、2010年度に行った3大学(北海道・関東・甲信越)における社会福祉士実習生のアンケート調査結果より実習上生じるストレスや危機の実態と構造について明らかにする。また、養成校教員及び実習先指導職員のヒアリング調査結果を分析し、学生の実態を踏まえたスーパービジョンやマネジメントあり方の新たなモデルを構築する。アンケート調査結果では、自由記

述分についてはKJ法及びテキストマイニングを使用した。

3. 倫理的配慮

実習生のアンケート調査及び養成校教員インタビュー調査・実習先指導職員のヒアリング調査については、調査対象者に協力依頼文書にて回答の強制を行っていないこと、プライバシーの遵守、得られたデータは本研究の目的のみに使用することを誓約し同意書を作成している。

4. 研究結果

2010年度3大学の社会福祉士実習生にアンケート調査を実施した結果、「実習後社会福祉士として働く意欲がわいた」という問いに否定的な回答（あまり思わない、全く思わない）をした学生（約23%）の特徴は、「実習ノートを書くのが負担だった」、「利用者と積極的に関われなかった」、「実習先で自分の居場所がなかった」、「実習中は精神的に不安定だった」、「利用者との関係、家族が抱える課題が理解できなかった」、「実習内容がケアワーク中心だった」、「実習での不安や悩みについてなかなか相談できなかった」などという点が抽出され、実習の悪循環の構造があることが示唆され、その背景に担当教員及び実習先指導職員との関係形成やスーパービジョン及び実習マネジメントの内容が大きく影響を及ぼしていることが明確になった。また、一方で、「ケアワーク中心だった」、「利用者の生活課題に強いストレスを感じた」、「心身の不調が続いた」などの負の因子があったとしても、巡回時の教員のスーパービジョンが適切であり、指導職員の関係形成が良好で、相談援助業務の実際や社会福祉士の役割が理解できた場合は、「実習後社会福祉士として働く意欲がわいた」という肯定的回答（少し思う・とても思う）が多く示された。さらに、実習職員または教員のアドバイスや対応で、実習や学習のモチベーションが高まった事例を分析することにより、学生が求めているスーパービジョンは、第一には支持的機能であり、話しやすい雰囲気や、不安や悩み・バーンアウトの対応など、個別状況に合わせた励ましや積極的肯定は学生の自信につながり、新しい気づきや発見を見出していた。

実習指導者のヒアリング調査の結果では、スーパービジョンのスタンスは、ソーシャルワーカー養成として、第一に人間性の教育、第二に専門職養成であることが強調されていた。その方法としては、学生の希望を重視し、苦手な部分をサポートして、得意な部分を伸ばすという支持的機能が基盤となっていた。支持的機能・教育的機能・管理的機能のそれぞれを明確に区分する事は難しく、3つの機能が有機的に融合して始めて、スーパービジョンが可能となることから、調査結果から同時に示された。相談援助実習が専門職養成として起動する為には、スーパービジョンにおけるこの3つの機能を意識的に位置づけ、発展していく必要がある。実習生アンケート・実習先職員のヒアリング調査・養成校教員のインタビュー調査結果を基に、相談援助実習生のストレンクス支援モデルを開発した。スーパービジョンに対しての教員自身の認識も課題が多いことから、さらに、養成校・実習先指導職員の連携を強め、スーパービジョンとマネジメントのあり方を深く追究していきたい。